

大阪市外郭団体等への関与及び
監理事項等に関する条例施行要綱に基づく
中期計画について

2023年4月



クリアウォーター-OSAKA株式会社

改正履歴

2022年6月	初版
2023年4月	第2版 ^{※1}

※1 「自治体のニーズ把握とソリューション提供に向けた取組み」に関し、ニーズ把握のための自治体ヒアリングが進捗したことに伴い、令和5（2023）年以降の指標および目標値を修正

はじめに

当社は、下水道管理者である大阪市建設局と一体不可分の関係にある上下分離組織として 2016 年 7 月に設立された監理団体であり、大阪市の下水道施設の維持管理運営業務を包括的・一体的に受託している。

一方、人口減少による使用料収入の減少や施設老朽化による改築更新事業の増大など、下水道事業の経営環境は今後さらに厳しさを増すことが想定される中、大阪府・大阪市においては昨年末に「大阪府市下水道ビジョン」を定め、府市の下水道が有する強みを生かして連携することにより、社会情勢の変化に効率的に対応し、府市が更なる発展をめざすとともに、府内市町村の下水道事業の持続的な事業運営に貢献していくこととしている。

今般、大阪市内一円下水道施設の包括維持管理業務の確実な履行だけでなく、「大阪府市下水道ビジョン」に定めた府内市町村の事業運営支援を行うことをはじめとした広域的な業務の拡大に取り組み、下水道事業の持続、発展に貢献するために、当社が果たすべき役割をあらためて認識するとともに、中期目標に沿い当社が行うべき事業経営の具体的な内容を明らかにするため、中期計画を次の通り策定する。

クリアウォーター-OSAKA 株式会社中期計画

1 中期計画の期間

令和4（2022）年7月1日から令和9（2027）年3月31日までの4年9か月間

2 大阪市の行政目的等を達成するために当社が行うべき事業経営の具体的な内容

今後、ベテラン社員の減少が進み、新たな技術者の育成が急務とされている中、業務品質を確保・向上させつつ業務領域および業務範囲の拡大を推進するため、2022年2月に「CWO 経営戦略2022」を定めたところである。

「CWO 経営戦略2022」においては、CWOを取り巻く下水道事業環境を認識しつつ、CWOのクロスSWOT分析を行い、「コアコンピタンスによるCWOブランドの確立」「バリューチェーンの強化」「他企業等とのアライアンス」を事業戦略として打ち出している。

コアコンピタンスとは、企業活動において、他社に真似できない中枢となる強みのことであり、当社が持つ①価値（Value）・②希少性（Rarity）・③模倣困難性（Inimitability）・④組織（Organization）の4つの強みをコアコンピタンスとして「CWOブランド」を確立することが、広域的な業務を拡大していくうえで最も重要である。

そのため本中期計画においては、CWOのコアコンピタンスを継承・強化していくための「人材育成の推進」を、広域的な業務を拡大するための業務執行体制確立を図るうえで最も重要な項目に位置付けるものとする。

① 価値 (Value)
施設の運転管理に止まらず、アセットマネジメントシステムに基づく品質・安全管理、包括業務のモニタリング、施工監督支援、下水道管理者への行政支援など、多様なサービスを展開
② 希少性 (Rarity)
下水管路、ポンプ場、下水処理場などシステム全体の運転維持管理、施設保全、住民対応から行政支援まで対応できる多様な人材を確保
③ 模倣困難性 (Inimitability)
下水道システム全体を直営で管理し現場を熟知した社員を有し、かつ大阪市下水道事業の技術を継承した組織
④ 組織 (Organization)
日常管理はもとより豪雨時やトラブル対応の経験豊富な社員に加え、多様な専門分野の人材のスキルやノウハウを蓄積し一体的に機能する組織

当社が持つ強み (コアコンピタンス)
(「CWO 経営戦略 2022」より)

(1) 具体的に取り組む事項

ア 業務執行体制を確立するための人材育成の推進

CWO ブランドの確立の基礎となっている当社のコアコンピタンスを継承していくために、様々な社内研修の実施や、日々のOJTを通じた知識・ノウハウの習得や技術継承といった人材の育成を強かに押し進めていく。

今後、退職者数が漸増傾向にある中で、主にベテラン社員の退職等により失われる技術力の減を、専門的知識を習得した若手社員を中心に補うことで、今後も継続的に当社が有する技術力のレベルを維持・向上させる取組みが必要不可欠である。

この取組みによって、大阪市下水道施設を適切に管理・運営しつつ、市域外業務の拡大に向けた広域事業戦略を推進するために必要な業務執行体制を確立することとする。

●技術力向上のための取組みについて

人材育成に係る取組みとしては、中期計画の期間を通じて様々な社内研修の実施や、日々の OJT を通じた知識・ノウハウの習得や技術継承の取組みを引き続き行っていく。

技術力向上を主目的として実施する社内研修の例

研修名	対象者	目標（各年度）
新採研修	新採	採用時研修期間内
下水道技術研修	採用後 2 年目、3 年目、4 年目	毎月 1 回
機械保全技能士受験講習	受験予定者（設備系）	5 月～2 月に適宜
自主保全士・電気主任技術者等	受験予定者（設備系）	5 月～2 月に適宜
階層別研修 （課長・主幹・係長・主任研修）	対象者	必要に応じて実施
社員全員研修	係長以下全員	1 回
水質管理研修	採用後 2 年目（設備系）	1 回
ディーゼルエンジン研修	採用後 2 年目（設備系）	1 回

※令和 3（2021）年度実績（必要に応じて見直しを図る）

イ 自治体のニーズ把握とソリューション提供に向けた取組み

「大阪府市下水道ビジョン」において大阪市は、古くから下水道事業を整備・運営してきた実績や、管きょから処理場までの総合的な下水道システムのノウハウを蓄積している強みを活かし、当社を活用して府内市町村の下水道事業の持続性確保に貢献することとしており、当社は外郭団体としてこの大阪市の行政目的を補完すべく、事業運営支援の拡大に向け取り組んでいくこととしている。

具体的には、府内市町村が抱える課題・ニーズに対し、当社が提供しうるソリューション（シーズ）をマッチングさせ、業務受注等につなげる取組みを継続的に行うことで、府内市町村の下水道事業の持続性確保に貢献するのみならず、当社としての広域的な業務の拡大に資することとなる。

そのため、当社は大阪府・大阪市と連携し、市町村単位、あるいは

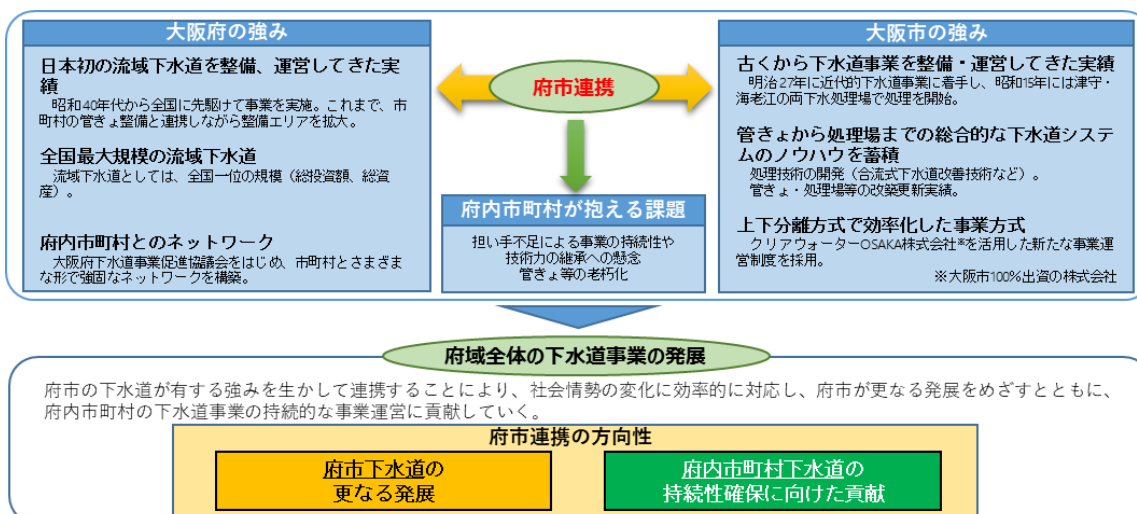
は広域化・共同化を意識したブロックごとの個別・具体的なニーズの調査（ヒアリング等）や、当社が提供しうる個別・具体的なニーズに応じた各種ソリューションの提案等を積極的に行っていく。

また、ニーズの調査結果について、技術力の向上のための人材育成メニューへの反映を検討していく。

●「大阪府市下水道ビジョン」に基づく府内市町村の事業運営支援について

「大阪府市下水道ビジョン」においては、大阪府・大阪市が、府市の下水道が有する強みを生かして連携することにより、社会情勢の変化に効率的に対応し、府市が更なる発展をめざすとともに、府内市町村の下水道事業の持続的な事業運営に貢献していくこととしている。

「大阪府市下水道ビジョン」において当社は、担い手不足による事業の持続性や技術力継承への懸念、施設の老朽化といった、府内市町村が抱える課題に対し、1世紀を超える大阪市下水道事業の伝統とDNAを受け継ぐ当社が、府内市町村のニーズに合ったソリューションを提供することで、大阪府・大阪市の行政目的である府内市町村の下水道事業の持続、発展に貢献することとしている。



府市連携のイメージ（「大阪府市下水道ビジョン」より）

府内市町村のニーズとして、「大阪府市下水道ビジョン」において府内市町村の全般的な課題を踏まえた今後の目指す姿（3つのビジョン）が示されているが、これらはいずれも当社がソリューション、もしくはシーズを有するもので

あり、今後、大阪府・大阪市と連携し、市町村単位、あるいは広域化・共同化を意識したブロックごとの個別・具体的なニーズの調査（ヒアリング等）や、当社が提供しうる個別・具体的なニーズに応じた各種ソリューションの提案等を積極的に行っていく。

ビジョン① 将来にわたり安定的に機能する下水道

- ・府市の官民連携の取組
- ・市町村公共下水道持続性確保（広域化・共同化計画の推進等）
- ・ストックマネジメント手法に基づく計画的改築、施設の再構築
- ・職員の技術力向上に向けた人材育成

等

ビジョン② 安心して暮らせるまちを支える下水道

- ・気候変動を見据えた流域治水の推進
- ・優先順位をつけた地震対策

等

ビジョン③ ストックを活用し社会へ貢献する下水道

- ・処理場再構築に合わせた下水道用地のまちづくりへの活用
- ・新技術開発のためのフィールド提供、技術の発信

等

府域全体の下水道事業の発展のための3つのビジョン
（「大阪府市下水道ビジョン」より）

(2) 事業経営の成果への貢献度を示す指標・目標の設定について

【指標 1】「下水道管理技術認定」「下水道技術検定（3種）」の新規取得者数

	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	中期計画 期間累計
目標値	12人	12人	12人	12人	12人	60人

様々な社内研修の実施や、日々のOJTを通じた知識・ノウハウの習得や技術継承といった人材の育成の成果を定量的に測定する指標として、地方共同法人日本下水道事業団が実施する下記2資格の新規取得者数を設定する。

①下水道管理技術認定 [下水管路の維持管理に係る資格]

②下水道技術検定(3種) [下水処理場・ポンプ場の維持管理に係る資格]

「下水道管理技術認定」「下水道技術検定(3種)」の新規取得者数の考え方については、「CWO 経営戦略 2022」において、DX、ア

ライアンスを活用し、社員数は今後も 1,000 人程度を維持しつつ、業務領域・業務範囲を順次拡大していくこととしている。

中期計画期間中における退職見込み人数は約 60 人であり、主にベテラン社員（うち有資格者約 1/4、残りも有資格者と同等以上の知識・技術を有する）の退職等により失われる技術力の減を、会社設立以降採用してきた若手のプロパー社員を中心とした専門的知識を習得した新規有資格者で補うこととするため、中期計画期間中の合計を 60 人とする。

これまでのプロパー社員の採用実績については概ね 15~20 人/年であり、採用後できるだけ早期に技術レベルを向上させる手段の一つとして本取組みを位置づけ、年ごとの新規資格取得者数は毎年採用人数の半数以上にあたる 12 人を目標とする。

なお、中期計画期間終了時には上記 2 資格に係る有資格者数は約 170 人から約 215 人に増加する見込みである。

【指標 2】

令和 4 年

府内自治体のニーズ把握とソリューション提供に向けたヒアリングの実施率

	令和 4 年 (2022)
目標値	100% ^{※1}

※1 対象：5 市 1 町（下水処理場関連）、6 市 1 村（広域化・共同化関連）

令和 5 年・令和 6 年

府内自治体（大阪府含む）^{※2}を対象とする研修、技術説明会における当社のソリューション発信の実施回数

	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
目標値	3回以上	4回以上

※2 府内自治体数（大阪市除く）：43自治体（大阪府+32市9町1村）

令和7年

府内自治体のニーズ把握とソリューション提供に向けたヒアリングの実施率

	令和7年 (2025)
目標値	100% ^{※3}

※3 対象：府内自治体（大阪府含む）、ただし当社が令和6年度末までに既に業務を受託している自治体を除く

令和8年

令和7年度末までに当社がソリューション提供可能なニーズを把握した府内自治体に向けた具体的な提案の実施率

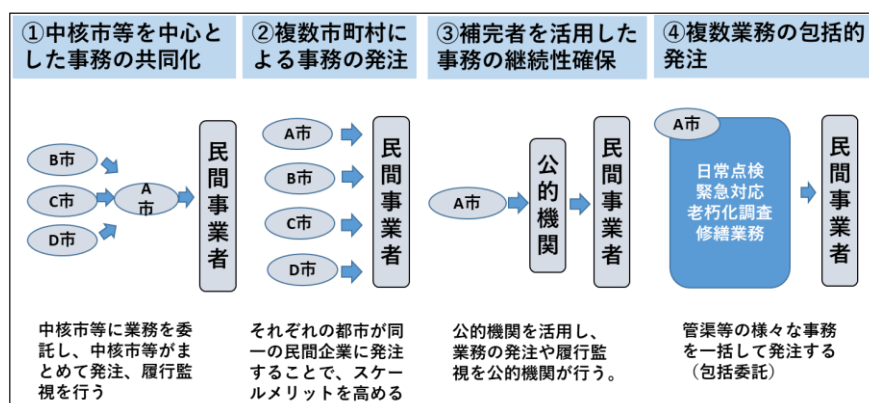
	令和8年 (2026)
目標値	100% ^{※4}

※4 対象：府内自治体（大阪府含む）、ただし当社がソリューション提供可能なニーズが把握できない自治体及び当社が令和7年度末までに既に業務を受託している自治体を除く

当社では大阪市内の12の下水処理場の運転・維持管理を実施しており、大阪市直営時代から受け継がれた技術や豊富なノウハウは、当社のコアコンピタンスを構成している。

今後、この技術・ノウハウを、大阪府内において下水処理場を管理する自治体（大阪府含む）に対し、当該自治体のニーズに応じたソリューションとして提供していくことで、「大阪府市下水道ビジョン」に掲げた府内市町村の下水道事業の持続的な事業運営に貢献することができる。

また、下水道使用料収入の減少や執行体制の脆弱化等の経営環境の悪化を背景に、下水道事業の持続可能性を確保するため、大阪府では公共下水道の様々な事務について共同化する取組を定める「大阪府域における下水道事業の広域化・共同化計画」を策定している。

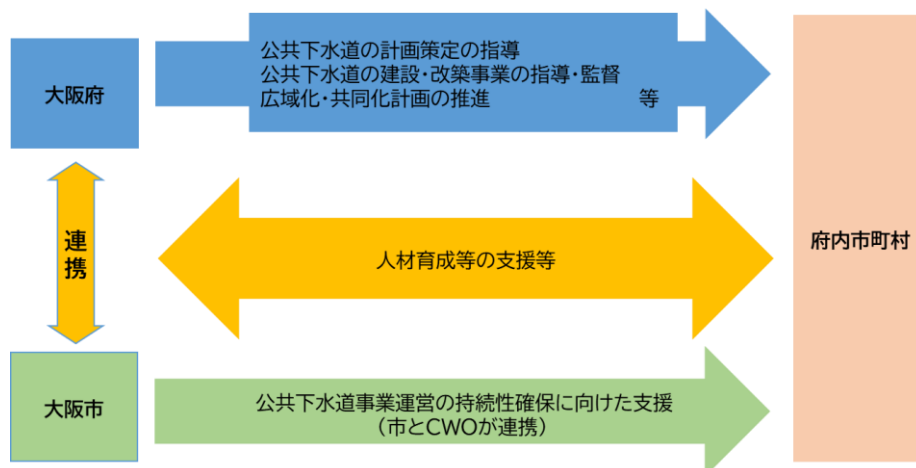


事業持続性確保の実現方法

(「大阪府域における下水道事業の広域化・共同化計画」より)

「大阪府市下水道ビジョン」においても、市町村単位、あるいは広域化・共同化を意識したブロックごとのニーズを把握したうえで広域化・共同化の取組みをさらに推し進めることとしており、大阪市の行政補完組織である当社を活用して府内市町村のニーズに合った事業運営支援、自治体の中に技術・ノウハウが残る（向上させる）運営支援を行っていくこととしている。

当社では現在、大阪府内の3市（堺市、交野市、河内長野市）の包括委託業務又は行政支援業務を受託しており、今後当社を核とする周辺市町村との広域化・共同化の実現、あるいは当社の業務地域の拡大（周辺自治体の業務をいずれも当社が受託）による「実質的な広域化・共同化」の実現に向け、府内自治体のニーズに応じたソリューションを当社が提供していくことで、「大阪府市下水道ビジョン」に掲げた府内市町村の下水道事業の持続的な事業運営に貢献することができる。



府内市町村への支援のイメージ

(「大阪府域における下水道事業の広域化・共同化計画」より)

そのため、

- 府内で下水処理場を管理する自治体（5市1町^{*1}）、および当社が包括委託業務又は行政支援業務を受託している自治体（大阪市および政令指定都市の堺市を除く、交野市、河内長野市）に隣接する府内市町村（6市1村^{*2}）のニーズ把握とソリューション提供に向けたヒアリングの実施率（令和4年）
- 府内自治体（大阪府含む）を対象とする研修、技術説明会の実施回数（令和5年～令和6年）
- 府内自治体（大阪府含む）を対象とする、ソリューション提供に向けたニーズ把握のためのヒアリング実施率（当社が令和6年度末までに既に業務を受託している自治体を除く）（令和7年）
- 府内自治体（大阪府含む）を対象とする、当社がソリューション提供可能なニーズを把握した自治体に向けた具体的な提案の実施（当社がソリューション提供可能なニーズが把握できない自治体および当社が令和7年度末までに既に業務を受託している自治体を除く）（令和8年）

を、広域的な業務拡大に向けたプロセスの達成度を定量的に把握し評価するための各年の指標として設定する。

※1 堺市、豊中市、池田市、吹田市、岸和田市、能勢町

※2 枚方市、富田林市、寝屋川市、和泉市、四條畷市、大阪狭山市、
千早赤阪村

(3) 行動計画

ア 業務執行体制を確立するための人材育成の推進

行動計画 【指標1】	
令和4年 (2022)	<p>有資格者やベテラン技術者の監修による研修を4回以上実施し、研修のほかにも配信によるワンポイントアドバイスや過去問題の演習など、試験対策に向け取り組む。</p> <p>また、「下水道管理技術認定」「下水道技術検定(3種)」を含む各種有資格者数について当社ホームページにおいて公表し、CWOブランドの確立に資する。</p>
令和5年 (2023)	<p>前年と同様の手法により研修を実施することに加え、前年の合格者の研修時の分野ごとの正答率等について分析するなど、より合格率を高めるための検討を行い、研修手法および内容に反映させる。</p> <p>技術力向上を主目的として実施する社内研修については、必要に応じて見直しを図る。</p> <p>また、「下水道管理技術認定」「下水道技術検定(3種)」を含む各種有資格者数について当社ホームページにおいて公表(更新)し、CWOブランドの確立に資する。</p>
令和6年 (2024)	<p>前年と同様の手法により研修を実施することに加え、前年の合格者の研修時の分野ごとの正答率等について分析するなど、より合格率を高めるための検討を行い、研修手法および内容に反映させる。</p> <p>技術力向上を主目的として実施する社内研修については、必要に応じて見直しを図る。</p> <p>また、「下水道管理技術認定」「下水道技術検定(3種)」を含む各種有資格者数について当社ホームページにおいて公表(更新)し、CWOブランドの確立に資する。</p>
令和7年 (2025)	<p>前年までの実績を踏まえた研修手法および内容の見直しを行うとともに、前年の合格者の研修時の分野ごとの正答率等について分析するなど、より合格率を高めるための検討を行い、研修手法および内容に反映させる。</p> <p>技術力向上を主目的として実施する社内研修については、必要に応じて見直しを図る。</p> <p>また、「下水道管理技術認定」「下水道技術検定(3種)」を含む各種有資格者数について当社ホームページにおいて公表(更新)し、CWOブランドの確立に資する。</p>

<p>令和8年 (2026)</p>	<p>前年に見直しを行った手法及び内容により研修を実施することに加え、前年の合格者の研修時の分野ごとの正答率等について分析するなど、より合格率を高めるための検討を行い、研修手法および内容に反映させる。</p> <p>技術力向上を主目的として実施する社内研修については、必要に応じて見直しを図る。</p> <p>また、「下水道管理技術認定」「下水道技術検定（3種）」を含む各種有資格者数について当社ホームページにおいて公表（更新）し、CWOブランドの確立に資する。</p>
------------------------	---

イ 自治体のニーズ把握とソリューション提供に向けた取組み

<p style="text-align: center;">行動計画 【指標2】</p>	
<p>令和4年 (2022)</p>	<p>市と連携して実施する市町村ヒアリングにおいて、当該自治体の下水処理場および広域化・共同化に係る具体的なニーズを把握する。</p> <p>また、当該ヒアリングの場を活用して、当社と当社の下水処理場および広域化・共同化等にかかるソリューションのメニューに関する認知度向上を図る。</p>
<p>令和5年 (2023)</p>	<p>前年までに把握した自治体の具体的ニーズを踏まえた、当社が提供しうるソリューションについて検討のうえ、府内自治体（大阪府含む）を対象とする研修、技術説明会の場等において当社のソリューションを発信し、ニーズとシーズのマッチングを図る。</p>
<p>令和6年 (2024)</p>	<p>前年までに把握した自治体の具体的ニーズや、研修、技術説明会の場等での反応を踏まえた、当社が提供しうるソリューションについて検討のうえ、府内自治体（大阪府含む）を対象とする研修、技術説明会の場等において当社のソリューションを発信し、引き続きニーズとシーズのマッチングを図ることで、当該自治体の下水道事業の持続性確保に資するとともに、当社としての広域的な業務拡大の取組みを進める。</p>

<p>令和7年 (2025)</p>	<p>前年までに把握した自治体の具体的ニーズや、研修、技術説明会の場等での反応を踏まえ、当社が提供しうるソリューションについて検討のうえ、府内自治体（大阪府含む）を対象としてソリューション提供に向けたニーズ把握のためのヒアリングを実施する。（当社が令和6年度末までに既に業務を受託している自治体を除く）</p> <p>また、当該ヒアリングの場を活用して、当社と当社の下水処理場および広域化・共同化等にかかるソリューションのメニューに関する認知度のさらなる向上を図る。</p>
<p>令和8年 (2026)</p>	<p>前年までに把握した自治体の具体的ニーズや、研修、技術説明会の場等での反応を踏まえ、当社が提供しうるソリューションについて検討のうえ、府内自治体（大阪府含む）を対象として当社がソリューション提供可能なニーズを把握した自治体に向けた具体的な提案を実施する。（当社がソリューション提供可能なニーズが把握できない自治体および当社が令和7年度末までに既に業務を受託している自治体を除く）</p>

3 財務運営の目標について

「CWO 中期経営計画 2022-2026」において次のとおり収支計画を定めるとともに、対象事業活動を将来にわたって安定的かつ継続的に行うことができる財政基盤が確保されているかを判断する指標として、収支計画における「税引前当期純利益」を設定する。

今後、中期経営計画に基づき、包括受託事業の確実な実施と市域外業務の獲得により経営の安定化を図るとともに、長期的な視点に立って継続的に効率性を追求し、経営基盤の強化を図る。

【指標】 税引前当期純利益 (百万円)

	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)
目標値	267	287	330	371	411

(百万円)

※2021年10月決算見込み

	2021※	2022	2023	2024	2025	2026
売上高	17,643	18,348	18,350	18,418	18,354	18,602
大阪市包括	17,169	17,848	17,750	17,718	17,504	17,602
市域外	474	500	600	700	850	1,000
売上原価	16,812	17,318	17,170	17,063	16,834	16,992
売上総利益	831	1,030	1,180	1,355	1,520	1,610
販売費及び一般管理費	638	770	900	1,032	1,156	1,206
営業利益	193	260	280	323	364	404
営業外損益	7	7	7	7	7	7
経常利益	200	267	287	330	371	411
特別損益	0	0	0	0	0	0
税引前当期純利益	200	267	287	330	371	411
法人税等（調整額含む）	70	129	143	172	191	207
税引後当期純利益	130	138	144	158	180	204

※小数点以下は、四捨五入している。

(CWO 中期経営計画 2022-2026 より抜粋)

大阪市が策定した中期目標

- 1 外郭団体名
クリアウォーターOSAKA 株式会社
- 2 所管所属名
建設局
- 3 中期目標の期間
令和4年5月1日から令和9年3月31日までの4年11か月間

- 4 本市が行政目的又は施策の達成のために当該外郭団体に求める役割を果たすために当該外郭団体が行うべき事業経営に関する事項

- (1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

大阪市内一円下水道施設の包括維持管理業務の確実な履行だけでなく、「大阪府市下水道ビジョン」に定めた府内市町村の事業運営支援を行うことをはじめとした広域的な業務の拡大に取り組み、下水道事業の持続、発展に貢献すること。

- (2) 中期目標の期間終了時において(1)の行政目的又は施策によって実現しようとする状態

当該外郭団体が府内市町村をはじめとした広域的な業務を行うことにより、事業運営支援を拡大している状態

- (3) (2)の状態を客観的に示す指標及び当該指標による目標（可能な限り定量的なもの）

指標：運営支援件数の増加（※）（R3年度までの累積45件）

目標：中期目標期間中の累積 50件（R8年度末において累積95件へと拡大）

（※）市町村に対して行う建設工事に関わる監督補助業務などの契約件数

- (4) (2)の状態にするために当該外郭団体が行うべき事業経営の具体的な内容

市域外業務拡大に向けた広域事業戦略を推進するための業務執行体制の確立（人材育成の推進）

- (5) (4)の事業経営の(2)の状態(成果)への貢献度を示す指標の例(可能な限り定量的なもの)

府内市町村をはじめとした事業運営支援に必要な下水道分野のより深い知識の取得となる下水道管路の維持管理に係る下水道管理技術認定の有資格者数、及び、下水処理場・ポンプ場の維持管理に係る下水道技術検定の有資格者数の確保

- 5 その他当該外郭団体の事業経営に関する事項で本市の行政目的又は施策の達成のために必要と認めるもの。

特になし



CWO マスコットキャラクター
スーアくん